

1. 会議名 令和7年度 第5回 印西市環境推進会議（市民会議）
  2. 日 時 令和7年11月21日（金）9:30～11:30
  3. 場 所 市役所 会議棟 204会議室
  4. 出席委員：小山会長、白川副会長、片桐委員、國武委員、富川委員、橋本委員  
福井委員、渡辺委員  
事務局：及川主任主事、本庄主事
  5. 傍聴者 0名
  6. 配布資料
    - ・会議次第
    - ・谷津ミュージアム事業視察感想
    - ・視察写真
    - ・令和7年度第4回印西市環境推進市民会議 会議結果報告書（案）
- (1) 開会  
(2) 会長挨拶  
(3) 議事
1. 観察研修について

#### —観察研修について事務局より説明—

委員：非常に良い研修であった。とても広く、田んぼや湿地帯、池もあり一周回れる散策道がとてもよく整備されていて我孫子市の自然に対しての取組が良く分かった。中でも一番羨ましいと思ったのは、作業小屋が整備されていて、農機具が整理整頓されていた。もう一つの小屋には自走式の耕耘機などが格納されていて、印西市にもぜひこういう物を作つて欲しいと思った。

委員：私も全く同じ考え方で、あの作業小屋は確かに良かった。本当に数多くのものがきれいに整頓して並べてあって、多くの人が関わっているにもかかわらず整理整頓されているのを見てすごいと感じた。このような場所はアクセスが良くないからこそあのような形で守られていると感じるが、行きたい人にとっては不便な点もあると感じた。

委員：皆さんのが活発に活動されていて、意識が高いことに感心した。非常に勉強になった。

会長：今の報告を踏まえて観察に行かれなかった委員から質問はあるか。

委員：会員57名でこの谷津ミュージアムを展開しているということか。

事務局：谷津ミュージアムの会と我孫子市がミュージアムを作り、我孫子市が主催する谷津学校という、谷津に関するその自然などを1年間学ぶ講座を開講しており、その卒業生が、あびこ谷津校友の会を結成して谷津ミュージアムの会と共に活動

の担い手になっていった。現在谷津ミュージアムの会が 57 名で一番会員が多く、新たな担い手はイベントの開催時などで参加を呼びかけたりして集めているということである。

委 員：先ほど出た農機具類などは、市と会員のどちらが購入しているのか。

事務局：倉庫自体は市が作ったもので、中にある農業機械や農機具の一部は市で買っているものもある。例えばトラクターやコンバインなど大型農機具は市では購入しておらず、谷津ミュージアムの会でも持っていないため、地元の農家の方に有償にて借りて使用させていただいているということであった。

委 員：作業小屋について、市が予算を確保し管理をするきっかけになった要因が分かれれば教えてほしい。

会 長：我孫子市が都市化されていく中で、この谷津を何とか残したいと考えた市の担当者が頑張って、谷津ミュージアム構想を作りあげたと認識している。

事務局：会議結果報告書の案の最後の質問に書いてあるが、20 年前に都市化が進む中で、自然が豊かに残る場所を保全しようという目的で市の職員が発端となって事業構想が作られ、趣旨に賛同してくださる方々を集めながら作ったという経緯である。

委 員：印西市でもそういう動きがあればこういう形のものはできるのか。

会 長：私はモデル地区を作つて残すという形が良いと考えており、市民のニーズとして市に伝える必要があると考える。今市長はグリーンインフラに关心を持っていらっしゃるので、その中で農地を守る活動などをグリーンインフラの政策の中にしっかりと入れもらえるよう声を上げることが大切だ。市の職員にも期待はするがなかなかこういう新しい発想を実現するのは難しいため、私たちもそれを応援するような形にしていけたらと考える。他に質問はあるか。

委 員：我孫子市が市として文化財指定しているヒカリモの発生地について、文化財として指定すると、民地にあるものでも所有者が勝手に壊したりとかできないという認識であるが、例えば印西市において環境関連の文化財として、生態系的な保存という意味で、指定されているものがあるのか。もしもある場合、事前に土地所有者とのやり取りはどうされているのか。

事務局：印西市では市の指定文化財の天然記念物として吉高の大桜や藤の木を指定している。生き物を守る上でこういう文化財指定を行うということは、一つの手だけは思うが、選定プロセスとして一定の学術的な価値と希少性は問われる。

我孫子市のヒカリモはかなり希少性の高い生き物で、関東地方においてもなかなか発生地が数少ないという状況下で指定されたという経緯があると考える。印西市でもそういった学術的に価値が高いものあれば指定はできると思うが、その判断は、有識者との協議の上で決めていくところが多いと思うので、課題もある。

会 長：富里にある NPO 富里の会が守っている福寿草は民地にあるが、天然記念物に指定

されている。手賀沼流域でも亀成川にしかいない魚がいるので、それを天然記念物指定して欲しい。

また、我孫子市が谷津を守るために谷津内の田んぼの所有者に対して、補助金を出しているのには感心した。1 平米あたり 30 円から 10 円までの幅があり、耕作していないなくても、ある程度草刈り等を実施し田んぼとして守っていればその分は補助金を出すという形を守っているので、そのような方法もすごく良いと感じた。今耕作したくてもできない農家は多くあり、草刈りだけならできるという農家もある。そういったところにお金を出して、農地を守るような形はとても大切なのではないか。田んぼは放置すると陸地化して木が生え、いざ何かあった時に田んぼにすぐ戻せないので、そのような仕組みが必要ではないだろうか。

報告書に記載があるとおり環境基本計画の実行性を強化するため、政策を具体化する積極的な保全地区の位置付けや手賀沼や印旛沼の水域が育んできた里地、里山環境を保全する新事業を検討し、環境基本計画において市内で保全すべき環境を位置付け、視覚的にわかる環境基本計画構想を作成してほしい、都市計画マスター プランとの整合性を取るため、環境基本計画に基づき、都市計画課に積極的な働きをしてほしいと思う。

委 員：ナガエツルノゲイトウの実証実験について伺いたい。

会 長：上部をビニールなどで覆って、光を通さないようにして育たないようにするという方法である。狭い範囲でやるなら有効だが範囲が広くなるとこの方法では対応が難しい。ナガエツルノゲイトウは繁殖力が高いので駆除はかなり力を入れないと難しい植物である。

では次の議題に移る。

## 2. 環境基本計画の推進に係る取組の検討について

事務局：グループワークの中で毎年作成しているエコカレンダーについて、最終稿が出来上がったので配布している。委員全員で確認をお願いしたい。

委 員：紙が良くなった。

事務局：裏写りが気になっていたため厚紙に変更した。また、穴は開けていないが、表紙の一番下の中央に穴あけの目安になる印を印字した。カレンダーの中身は富川委員を含め、グループの方々に皆でご作成いただき、プラスチックごみの出し方が 10 月から変わった話など新しい情報をいくつか盛り込んで、とても見栄えのいいものになった。まだ本印刷はしていないが、本日確認し問題がなければ、12 月 1 日から各場所で配布できるように印刷を進める予定である。今年は印刷の部数を増やして、650 部ほど印刷予定である。配布する場所での部数も過去の傾向を見ながら傾斜をかけつつ多くのする。

広報は 12 月 1 日号に掲載予定で、市のホームページでも掲載する。

委 員：2026 年度はエコとサステナブルという課題に沿ったカレンダーにしていきたい。

例えばNPO団体の活動紹介を入れたり、地域での活動をしている活動例を盛り込んだりしたカレンダーにしたい。

委員：各ページの写真について、どこで撮った写真か分かるように場所を追記してはいかがか。

事務局：調べて追記する。

会長：プラスチックごみの出し方が変わりましたとのチラシの部分だが、回収できないプラスチック製品は裏面参照と書いてある部分はチラシの裏面が掲載されていないため削除すべきである。

事務局：クリーン推進課に確認の上削除の方向にて検討する。

会長：来年の環境フェスタの開催日が決まっていたらカレンダーに追記すべきでは。

事務局：クリーン推進課に確認の上追記可能であれば追記する。

会長：7月の特定外来生物に関する記述の部分にて、許可なしで捕獲を行うことができますという記述は必要か。捕獲した場合別の場所で放流されるのは困るので、何か良い書き方がないだろうか。

委員：必要な事項はすべて記載があるので不適切とは思わない。

会長：ではそのままにすることとする。次にグループワークを行う。

#### —グループワーク—

委員：来年以降の話をした。来年はスタイルを変え環境問題に貢献してくれるようなNPOの紹介を半分ぐらい入れ、市民の皆さんに紹介するのと同時に市民の皆さんをこういう活動にお誘いすることで盛り上げていくといったツールにしたい。市民活動支援センターに登録のあるNPOなどから選び、内容はそのNPOの方とご相談しながらやっていきたい。

委員：広報も良いが、これを知らない市民が沢山いるため、もう少し知ってもらいたい。広報に掲載すると回覧板での配布も難しくなると聞き、インスタ等のSNSに掲載をしていただきたい。

事務局：SNSは掲載の方向で検討する。

会長：グリーンインフラグループはいかがか。

委員：グリーンインフラグループでは条例の制定、そして具体的にその中にモデル地域を決めて具体的な内容を進めていこうというところで候補地を3つほど上げたところまで話をした。

会長：他質問は特に無いようなので事務局にお返しする。

#### (4) その他

※議題なし※

事務局：次回の会議の予定は年明け 1 月 16 日の金曜日を予定しているので、開催案内等については後日メール等で送付する。

( 5 ) 閉会

以上

令和 7 年度第 5 回印西市環境推進会議（市民会議）の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和 8 年 1 月 15 日

印西市環境推進会議（市民会議）委員：橋本 千代子

印西市環境推進会議（市民会議）委員：富川 和幸